

GUIDEBOOK

生成AI 利活用ガイドブック

学校と家庭で、安心して使うために
For Students, Parents & Teachers

このガイドブックについて

このガイドブックは、児童の話し合いと編集会議で出た意見、保護者のみなさまの声、そして学校で大切にしたい考え方をもとに作成しました。生成AIは、上手に使いえば学びを助ける道具になります。一方で、使い方を間違えると、学びや生活に困ったことが起こることもあります。このガイドブックでは、次のことをまとめています。

- 生成AIをどのように考えればよいか
- 学校と家庭でどのように関わるか
- 困ったときにどうすればよいか

学校と家庭が同じ方向を向きながら、子どもたちの安心と学びの両方を守っていけるよう、このガイドブックを活用してください。

このガイドブックが対象とするもの

このガイドブックでは、文章や画像、音声などを作る生成AIや、生成AIを使った検索・学習支援の機能など、生成AIに関わるサービス全般を対象とします。形や名前が違っていても、守るべき考え方は共通しています。家庭で生成AIサービスを利用する際は、各サービスの年齢条件、利用規約、個人情報の取扱いを確認し、必要に応じて保護者の判断のもとで利用してください。サービスによっては、保護者の同意が必要な場合があります。

目次

チャプタ1 活用の手引き

- 1-1 どんな時にどう使うか
- 1-2 生成AIのよいところと気をつけたいところ
- 1-3 まず守る5つの合言葉

チャプタ2 ルール（学校と家庭）

- 2-1 学校での扱い（本校の方針）
- 2-2 家庭での扱い（保護者と一緒に）
- 2-3 学年別の目安

チャプタ3 よくある場面の手引き

- 3-1 学習での線引き（OK/NG）
- 3-2 確かめ方（うのみにしない手順）

3-3 提出物・宿題・評価の考え方

3-4 作品・写真・文章のきまり

チャプタ4 困ったときのサポート

4-1 こんなときどうする（子ども向け）

4-2 こんなときどうする（保護者向け）

4-3 初動チェック

4-4 学校への相談と対応

巻末

用語ミニ辞典 / 提出物で生成AIを使ったときの書き方 / 更新欄

改訂履歴・相談窓口

初版：2026年3月 / 次回見直し予定：2027年3月 / 見直し：必要に応じて年度途中にも見直します

相談窓口：担任／学年主任／情報担当／管理職

活用の手引き

生成AIは、文章や画像などを作ったり、質問に答えたりすることができる道具です。上手に使えば学びの助けになりますが、使い方を間違えると困ったことも起きます。このチャプタでは、どんな時にどう使うとよいか、気をつけたいことは何か、まず守るルールは何かをまとめます。

大切なのは、生成AIが主役ではなく、子ども自身が学びの主役であるということです。

1-1 どんな時にどう使うか

生成AIは、考えることを代わりにやってくれるものではありません。自分で考える学びを中心にして、必要な場面で「手助け」として使うことが大切です。

どんな時に使えばいいのか（9つの例）

1. 調べ学習の入り口を作る時（調べる言葉を考える）
2. 見方を増やしたい時（別の考え方を増やす）
3. 文章を読みやすく整えたい時（言い換え・順番）
4. 発表の組み立てを考えたい時（構成・順序）
5. 伝わるか点検したい時（読み手の目）
6. 間違いや抜けを点検したい時（チェック）
7. アイデアを広げたい時（創作・表現）
8. ふり返りを深めたい時（次の改善）
9. 家庭で保護者と一緒に確かめながら学ぶ時

各場面の使い方と注意点

場面	使い方	気をつけること
調べ学習の入り口	調べたいことをはっきりさせ、調べる言葉を考える時に使う。	最初から答えをもらうのではなく、入口として使い、出てきた情報は必ず確かめる。
見方を増やす	理由・原因・影響・反対の考えなど、さまざまな角度から考える時に使う。	出てきた見方が正しいとは限らないので自分の考えと比べて使う。
文章を整える	自分で書いた文章の言い換えや順番、分かりやすさを考える時に使う。	丸ごと文章を作ってもらってそのまま提出しない。最後は自分の言葉として整える。
発表の組み立て	発表の順番やどこから話すと伝わりやすいかを考える時に使う。	自分の体験や根拠になる資料が入っているかを確認する。
伝わるか点検	相手に伝わるか、説明が足りないかを見直したい時に使う。	指摘をそのまま直すのではなく、なぜ直すのかを考えて使う。
間違いや抜けの点検	自分が書いたことやまとめたことに矛盾や抜けがないか見直す時に使う。	生成AIの点検も間違うことがあるので、最後は自分と大人で確認する。

場面	使い方	気をつけること
アイデアを広げる	物語、絵、発表、ものづくりなどで案を増やしたい時に使う。	誰かの作品に似すぎないようにし、友だちの作品や他の人の文章をそのまま入れない。
ふり返りを深める	何がうまくいったか、次は何を直したいかを考える時に使う。	ふり返りの結論は自分で決める。
家庭で保護者と一緒に学ぶ	家庭で保護者と一緒に画面を見ながら、質問や答えを確認する時に使う。	個人情報を入れず、時間を決めて使う。

1-2 生成AIのよいところと気をつけたいところ

✓ よいところ

- 調べ方や考え方の入り口が作れる
- 言い換えや整理のヒントがもらえる
- 見方が増えて、考えを深めやすい
- 点検やふり返りの視点が增える

⚠ 気をつけたいところ

- もっともらしく間違えることがある
- 根拠が弱いまま答えることがある
- 使いすぎると、自分で考える時間が減る
- 個人情報や写真を入れると危険がある
- 作品や文章のきまりに注意が必要である
- 偏った見方や、だれかを傷つける表現が出ることもある

大切な考え方

- 生成AIは道具です。主役は子どもです。
- 最後に判断して責任を持つのは人間です。
- 生成AIの答えが、人を大切にしているか、だれかを傷つける内容になっていないかも考えることが大切です。
- 自分で考える → 相談する → 自分で確かめて整える この順番を大切にします。

1-3 まず守る5つの合言葉

児童：合言葉



保護者：項目と内容

①	まずは同席し、質問内容と答えと一緒に確認する
②	宿題や学習は「自分 → 相談 → 自分で整える」の順番にする

③	情報は複数の資料で確かめる習慣をつける
④	個人情報・写真・友だち情報は入力しない
⑤	時間と場面を決めて使う

ルール（学校と家庭）

2-1 学校での扱い（本校の方針）

学校での基本方針

本校では、児童が学校で生成AIに直接入力して操作することはありません。授業では、先生が用意した生成AIの出力を教材として扱い、確かめ方や考え方を学びます。

学校での扱い一覧

先生がすること	先生がしないこと
<ul style="list-style-type: none"> ・教材作りや授業準備の補助として活用する ・出力をそのまま使わず内容を確認して整える ・出力の良い点と危うい点を教材として扱う ・教科書や資料で確かめる学習を組み込む 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にログインIDやパスワードを配布する ・児童の個人情報、成績、健康などを外部サービスに入力する ・出力を確認せずに配布物や評価に用いる

情報セキュリティ	学校では、情報セキュリティに関する学校のルールに沿って生成AIを取り扱います。安全に使うために、入力する情報の種類や扱い方を確認しながら運用します。
学習の評価	児童の学習の評価は、必ず教師が行います。生成AIの出力だけで学習の評価を決めることはしません。
学校で困ったとき	授業中に不安が出たら、その場で先生に伝えます。嫌な表現が出た場合も、止めて先生に伝えます。
家庭差への配慮	家庭で生成AIを使うかどうかは各家庭の判断です。学校の学習や宿題は、生成AIを使わなくても取り組める形を基本にします。家庭での利用有無によって、評価の上で不公平が生じないように配慮します。

2-2 家庭での扱い（保護者と一緒に）

家庭での基本ルール

1. まずは保護者と一緒に使う
2. 宿題は、まず自分で取り組む
3. うのみにしないで、確かめる
4. 個人情報や写真を入れない
5. 時間と場所を決めて使う
6. 困ったときは、隠さず相談する

家庭での線引き (OK)

- 言い換え、点検、観点を増やす相談など、学びを深める使い方は役立ちます。
- 使った場合は、「どこで使ったか」「何を自分で直したか」を説明できることを大切にします。

家庭での線引き (NG)

- 最初から答えや文章を作ってもらい、そのまま提出する使い方はしません。

家庭で守るポイント

- サービスによっては、入力した内容が保存されたり、学習に使われたりする場合があります。個人情報を入れないことを徹底してください。
- 家庭のルール（時間・場所・同席の仕方）は、各家庭の状況に合わせて決めてください。
- 家庭で利用する際は、各サービスの年齢条件、利用規約、個人情報の取扱いを確認してください。必要に応じて、保護者の判断と同意のもとで利用してください。

2-3 学年別の目安

学年	家庭での目安	ポイント
1・2年生	基本は使わないか、使うときは保護者と短時間。	合言葉5つを守る、困ったら大人に言う。
3・4年生	保護者と一緒に、調べ学習の入り口や言い換えなど限定的に活用。	本当か確かめる。
5・6年生	保護者とルールを決めた上で、必要な場面で活用。自分の考えを中心に、材料として使う。	提出物は丸写しではなく、学びが深まる使い方にする。

学校では (全年共通)

学校では児童が直接入力しません。先生が提示した出力を「材料」として、確かめ方や考え方を学びます。

バランスについて

生成AIを使うことだけが学びではありません。本を読むこと、人に聞くこと、体験して学ぶこと、自分の手で考えて表現することも、同じように大切にします。

よくある場面の手引き

3-1 学習での線引き (OK/NG)

OK 学びが深まる

- 調べる言葉を考える
- 見方を増やす
- 文章の言い換えや読みやすさの点検
- 誤字脱字や矛盾のチェック
- ふり返りの視点を増やす

NG 学びが残りにくい

- 答えや文章を丸ごと作らせて、そのまま提出する
- 自分で考える前に結論だけをもらう
- 友だちの作品やネットの文章をそのまま入れて作らせる
- 自分の考えや根拠が分からなくなる使い方をする

迷ったときの戻り道

迷ったら「自分で考える → 相談する → 自分で確かめて整える」に戻ります。使った場合は、「どこに使ったか」「何を自分で直したか」を説明できる形にします。

3-2 確かめ方 (うのみにしない手順)

低学年向け

1. 本当かな？と聞く
2. 本や教科書でも見る
3. わからなかったら大人に言う

3～6年生向け

1. 教科書・本・資料でも同じことが言えるか
2. 理由（根拠）があるか、出どころが示せるか
3. 差がある意見もあるか

確かめ方の事例

対象	AIの発言（例）	確かめ方
低学年	「この食べ物を食べると必ずかぜが治る」と言った。	本当かな？と聞く → 家の人や先生に言う → 教科書や本で確かめる。すぐに信じず、大人と一緒に確かめます。
高学年	「A県は日本でいちばん雨が深い」と言った。	①教科書・資料集・信頼できるデータで確認する ②数値や年の範囲を確かめる ③別の資料と比べて同じかを見る

3-3 提出物・宿題・評価の考え方

このページの目的

家庭で生成AIを使うかどうかは家庭の判断です。どの家庭でも不利にならず、子どもの学びが正しく見えるように、学校の考え方を示します。

学校の基本方針

1. 宿題や提出物は、生成AIを使わなくても取り組める形を基本にします。
2. 評価は、「考えた過程」「根拠」「自分の言葉で説明できるか」を大切にします。
3. 生成AIを使ったかどうかで有利・不利が出ないようにします。

宿題・提出物で大切にできる線引き

最初から答えや文章を作ってもらい、そのまま出すことは、学びが残りにくいので避けます。言い換え、点検、観点を増やす相談など、学びを深める使い方は役立ちます。大切なのは、「自分で考えた部分」と「確かめた跡」が残っていることです。

透明性（正直さ）について

生成AIを使った場合、どこで使ったかを自分で説明できることが大切です。学校としては、提出物に「使った場面」を短く書くことを推奨します。書いたから減点、という扱いにはしません。学びの過程を分かりやすくするためのものです。

うまくいかなかったとき

丸ごと作ってしまった場合でも、隠すのではなく、学びが残る形でやり直せるように支援します。必要に応じて担任と相談し、次に生かす形にします。

3-4 作品・写真・文章のきまり

大切なこと

- 他の人の作品や文章には権利があります
- 生成AIの作品も、誰かの作品に似てしまうことがあります
- 友だちの作品や写真、名前、学校名などを入力したり、勝手に使ったりしません

守り方

- 作品や文章をそのまま入れない
- 引用するときは出どころをメモする
- 友だちが関わる内容は、大人に相談して進める

公開するときの注意

授業の中で使える場合があっても、学校の外に公開したり、作品を応募したり、SNSに載せたりする場合には、別の注意が必要です。公開する前には、教師や保護者と確認してください。

困ったときのサポート

困ったことが起きても、ひとりで抱えないことが大切です。「止める」「相談する」「やり直す」の順番で、安心して立て直せるようにします。

4-1 こんなときどうする（子ども向け）

こんなとき	どうする
こわい言葉が出た	やめる → 画面を閉じる → 大人に言う
名前や写真を入れそうになった	やめる → 大人に言う
ずっと使いたくなかった	時間を決めなおす → 大人に言う
宿題を全部作ってもらった	隠さない → 大人や先生に言う → やり直す

4-2 こんなときどうする（保護者向け）

場面	家庭で	学校へ
宿題を丸ごと作ってしまった	どこが自分で、どこが生成AIかを一緒に分ける。学びが残る形でやり直す。	心配があれば担任へ相談。評価の公平性を守りつつ、立て直しを支援します。
個人情報や写真を入れてしまった	何を入れたか確認し、同じことをしない方法を考える。必要に応じて設定や履歴を確認する。	(相談窓口へ)
いやな表現、こわい内容が出た	すぐに止めて、子どもの気持ちを受け止める。何が出たか確認する。	(相談窓口へ)
使う時間が増えすぎた	目的・時間・場所を決め直す。生活リズムを守る。	(相談窓口へ)
友だちとのトラブルになりそう	友だちの名前や作品を入力しない、勝手に載せないことを確認する。	(相談窓口へ)

4-3 初動チェック

子ども	保護者	学校
<ul style="list-style-type: none">① やめる② ひとりで決めない③ 大人に言う	<ul style="list-style-type: none">① 止める② 何が起きたか確認する③ 子どもを責めずに状況を整理する④ 必要なら設定や履歴を確認する⑤ 不安があれば学校に相談する	<ul style="list-style-type: none">① 児童の安全と安心を確保する② 何が起きたか整理する③ 必要に応じて記録を残す④ 家庭と連携する⑤ 学習の立て直しと再発防止を行う

4-4 学校への相談と対応

相談窓口：担任／学年主任／情報担当／管理職

相談内容ごとの対応

- ・不安があれば担任へ相談してください。
- ・不安が続く場合は担任へ相談してください。
- ・学習への影響が大きい場合は相談してください。
- ・早めに担任へ相談してください。

学校として大切にすること

- ・子どもの安全を第一にします
- ・学びの公平性を守ります
- ・困ったことが起きたときは、学びが止まらない形で立て直します
- ・ガイドブックは定期的に見直し、必要に応じて更新します

説明と見直し

学校は、必要に応じて保護者への説明の機会を設けます。また、学校での扱い方や見直しの内容について、わかりやすく伝えるように努めます。

見直しの考え方

原則（変わらない大切なこと）は本文で守ります。運用（サービス例、家庭ルール例、社会状況に応じた注意点）は更新欄で見直します。

用語ミニ辞典・書き方・更新欄

用語ミニ辞典

生成AI

文章や絵などを作ることができるAIのこと。

うのみにする

確かめずに、そのまま信じること。

個人情報

名前、住所、学校名、顔写真など、その人が分かる情報。

著作権

作品を作った人の大切な権利。勝手に使うと問題になることがある。

根拠

「なぜそう言えるのか」の理由になる資料や事実。

提出物で生成AIを使ったときの書き方（推奨）

項目	書く内容
使った場面	言い換え／点検／調べる言葉づくり など
自分でやったこと	最初に考えた内容、調べた資料
確かめたこと	教科書・本・資料と比べた点
最後に直したところ	自分の言葉にした部分

更新欄

- ・社会状況の変化に応じた注意点
- ・家庭ルールの例（時間・場所・同席など）
- ・必要に応じたリンク・参考
- ・改訂履歴